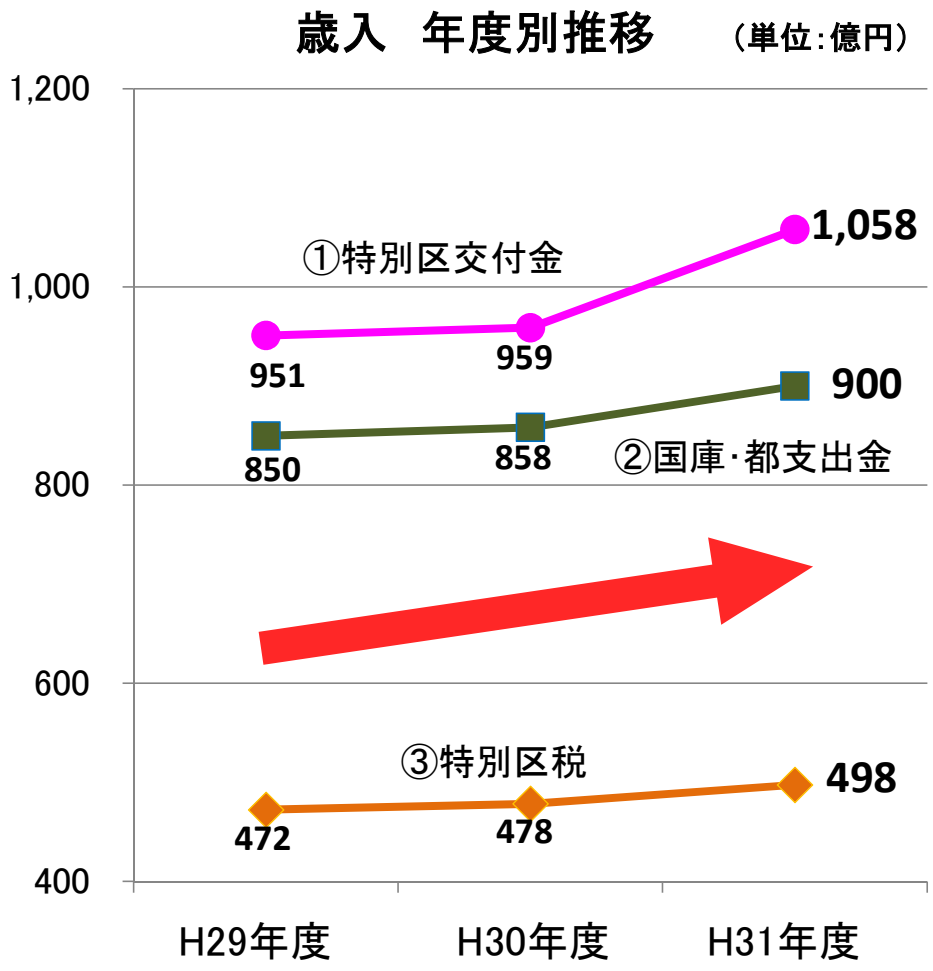
より強く、築こう。

人生100年時代の礎

2019

2019（平成31）年度 予算編成のあらまし

2019（平成31）年度当初予算【歳入】



主な科目の計上概要等

H31当初一般会計 2,866億円（H30当初2,769億円）

①特別区交付金 1,058億　+99億
- 法人住民税一部国税化による減収を、景気による増収が上回り、差し引きでは増額

②国庫・都支出金 900億　+41.4億

③特別区税 498億　+19.2億
- 区民税納税義務者の増加　（約7,500人増見込）
- 収納率の向上　（H31目標：95.81%）
  ※H29決算：94.65%

その他
- 繰入金　140億　▲61.8億
  大学病院施設等整備基金繰入金　▲46億　ほか

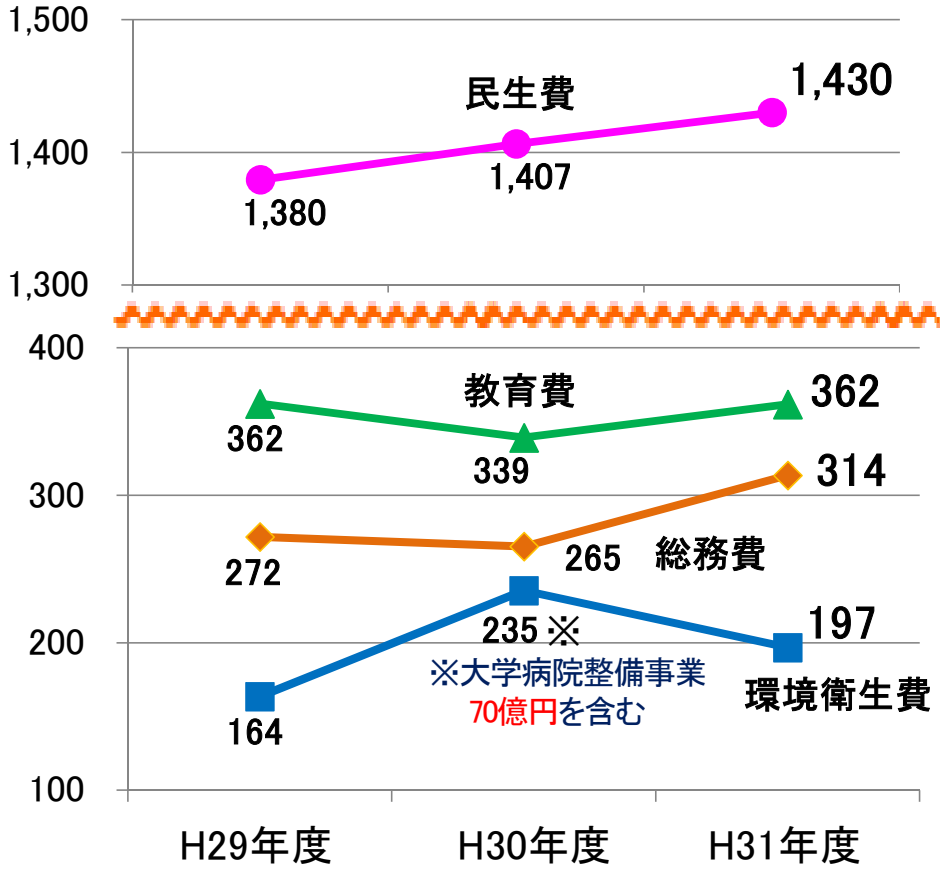
※金額は、表示している単位未満を四捨五入しています。

「人生100年時代」を生き抜くために

2019(平成31)年度の重点推進項目

2019（平成31）年度当初予算【歳出】

歳出　款別年度別推移　（単位：億円）



主な事業の計上概要等

H31当初一般会計 2,866億円（H30当初2,769億円）

礎１　健　康　環境衛生費など

- 乳がん･子宮頸がん検診ワンコイン化等がん検診　＋1.7億
- 若年者（18～39歳）健診の機会拡大　＋0.3億

礎２　治安･防災対策　総務費、教育費など

- 地域BWAの活用（小学生登下校見守り等）　＋1.2億
- 公衆喫煙所の受動喫煙対策強化　＋1.5億
- 学校体育館へのエアコン設置　＋1.5億
- 防災減災対策整備基金の創設　（H30年度3月補正予定）

礎３　子どもの学習環境　総務費など

- 学校ICT環境の整備　＋10.9億

※金額は、表示している単位未満を四捨五入しています。

1 礎

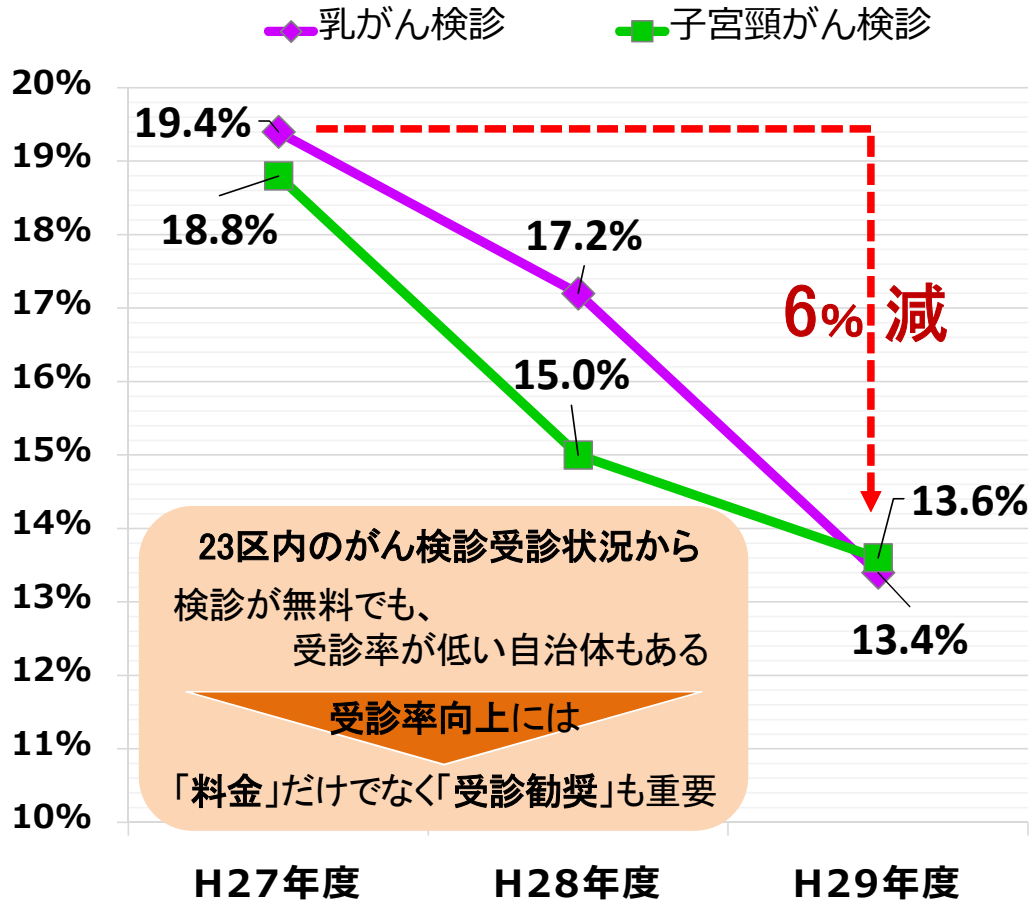
健　康

より強く、築こう。 人生100年時代の**礎**

ADACHI CITY

健康1 乳がん・子宮頸がん検診のワンコイン化と受診勧奨強化①

乳がん・子宮頸がん検診受診率



23区内のがん検診受診状況から

検診が無料でも、
受診率が低い自治体もある

受診率向上には

「**料金**」だけでなく「**受診勧奨**」も重要

平成27～29年度

乳がん・子宮頸がん検診受診率
減少傾向

【考えられる要因】

～平成27年度　検診ごとに受診券を郵送（受診時期ごと）

平成28年度～　総合受診券(※)を、6月に一斉郵送
※1枚で複数の検診を受診可能で、
年間を通じて使用

再検討予定

がん対策は、
早期発見・早期治療が重要

2020年度

乳がん・子宮頸がん検診の
受診率20%をめざします！

健康1 乳がん・子宮頸がん検診のワンコイン化と受診勧奨強化②

2019(平成31)年度の取り組み

向上策１ ワンコイン(500円)化 拡充

予算額：278,262千円（＋103,575千円）

気軽に受診できるよう、
検診の自己負担額を引き下げ

乳がん検診	2,200円	➡ 500円
子宮頸がん検診	2,000円	

向上策２ 受診勧奨強化 新規 予算額：2,498千円

がん検診受診券送付による勧奨に加え、
以下の対象者に受診勧奨を実施

乳がん検診

40歳以上 5年ごと ＋ 40～70歳 2年ごと

子宮頸がん検診

20歳以上 5年ごと ＋ 30～70歳 2年ごと

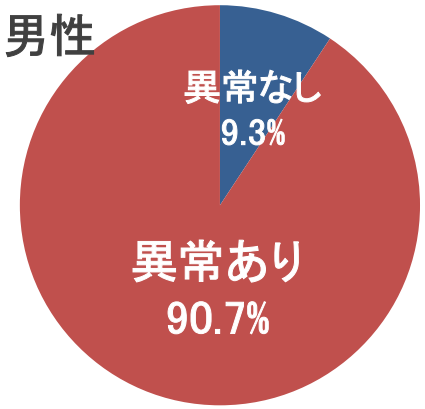
※2019(平成31)年度の実施予定年齢。2020年度からは見直し予定。

目標受診率

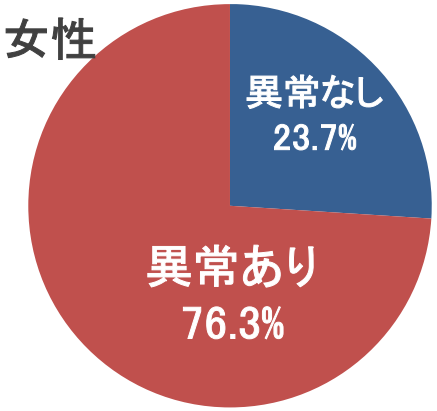
	（平成29年度）		（2020年度）
乳がん検診	13.4％	➡	20％
子宮頸がん検診	13.6％		

健康2 若年者(18～39歳) 健診の機会拡大①

若年者向け「40歳前の健康づくり健診」受診者の状況
（平成28年度）



受診者の平均年齢：33.4歳



受診者の平均年齢：34.2歳

40歳前から、既に何らかの異常が！

血圧や血糖、脂質などが基準値を超えている方
男性 90.7%　女性 76.3%

このまま40・50代を迎えると・・・

心筋梗塞、脳梗塞、脳出血により、
突然死や重い障がいが残る危険性も高まる

若年者の健康状態を改善するために健診機会を拡大

若年期から
・健康意識の向上
・生活改善の動機付け

→

・将来的な生活習慣病予防
・早期発見

→

健康寿命の延伸

健康2　若年者(18～39歳) 健診の機会拡大②

（1） 保健センターでの健診機会の拡大

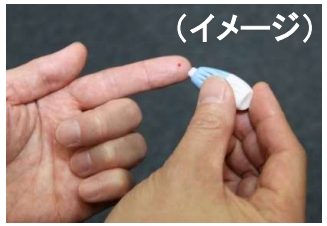
予算額：33,360千円（＋30,572千円）

	～平成30年度	2019(平成31)年度～	
定　員	1,560人	2,000人	定員増
利便性の向上	実施時間帯 ： 午前のみ うち土曜日実施 ： 9回	実施時間帯 ： 午前・午後 うち土曜日実施 ： 12回	充　実

（2） 自宅でできる簡易血液検査の拡大

予算額：10,190千円（＋3,146千円）

	～平成30年度	2019(平成31)年度～	
対象者	25,35,39,43歳の国保加入者 ※H30.4.1.現在　5,940人	18～39歳の区民 ※H30.4.1.現在　181,000人	対象範囲拡大
定　員	1,000人	1,500人	定員増



◀簡易血液検査

自宅からほんのわずかな血液を郵送することで、血液検査が可能。

予算のあらまし：30・31ページ

健康3 高齢の方が利用できる検診等ラインナップ

	事　業　名	対　象
新規	高齢者インフルエンザ 予防接種費用の無料化 （接種見込：47,415人）	75歳以上の区民
新規	胃がん内視鏡検診の開始 （自己負担：2,000円） （受診見込：5,000人）	50歳以上の区民
拡充	糖尿病眼科健診の対象年齢拡大 （65歳追加、全対象自己負担：無料） （受診見込：1,200人→2,300人）	・45、50、55歳の特定健診未受診者等 ・60、65歳の区民
継続	後期高齢者歯科健診の実施 （H30から実施、自己負担：無料） （受診見込：1,550人）	76、80歳の区民

2 礎

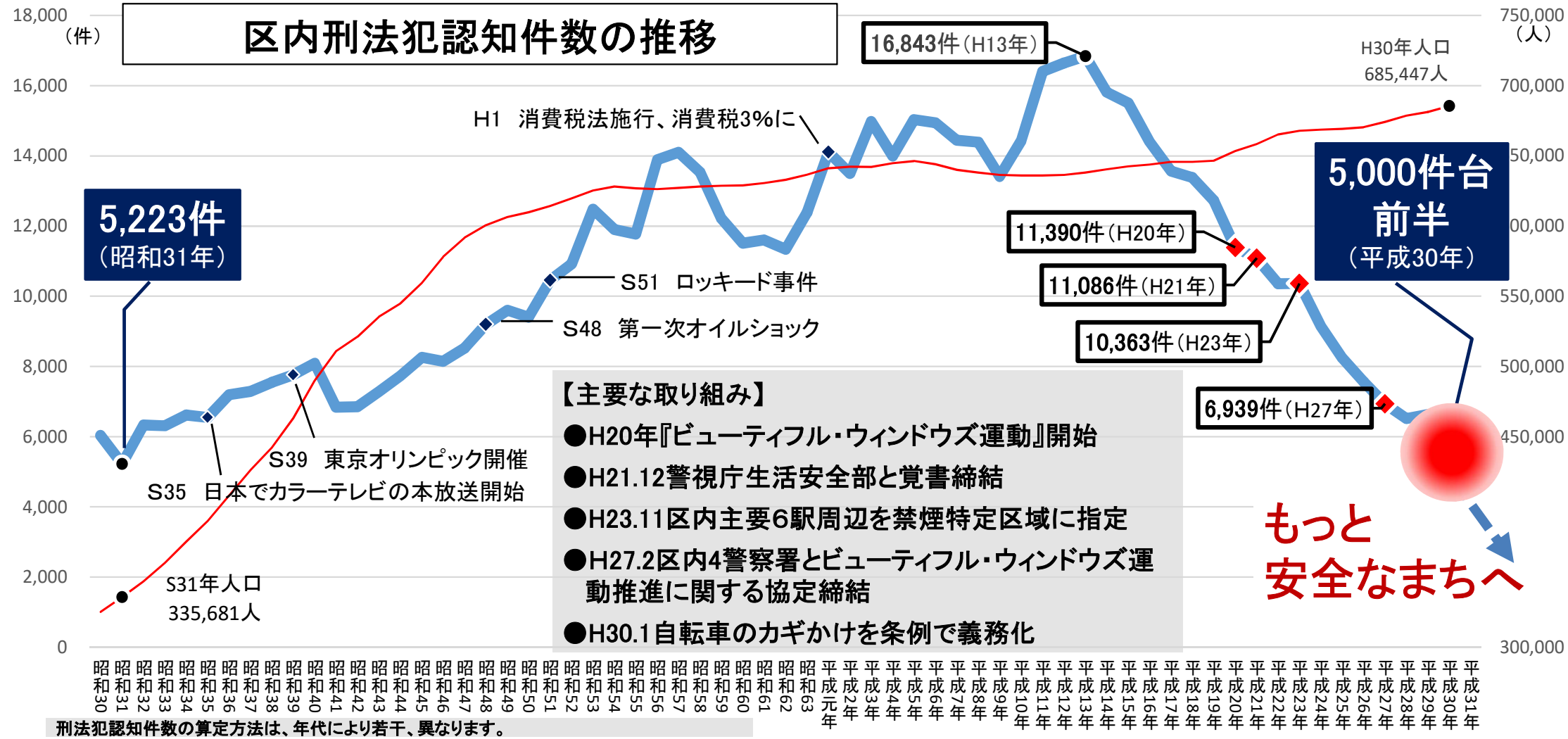
治安・防災対策

より強く、築こう。 人生100年時代の**礎**

ADACHI CITY

治安・防災対策

平成30年は5,000件台前半達成。62年ぶりの快挙！
（見込み）



【主要な取り組み】

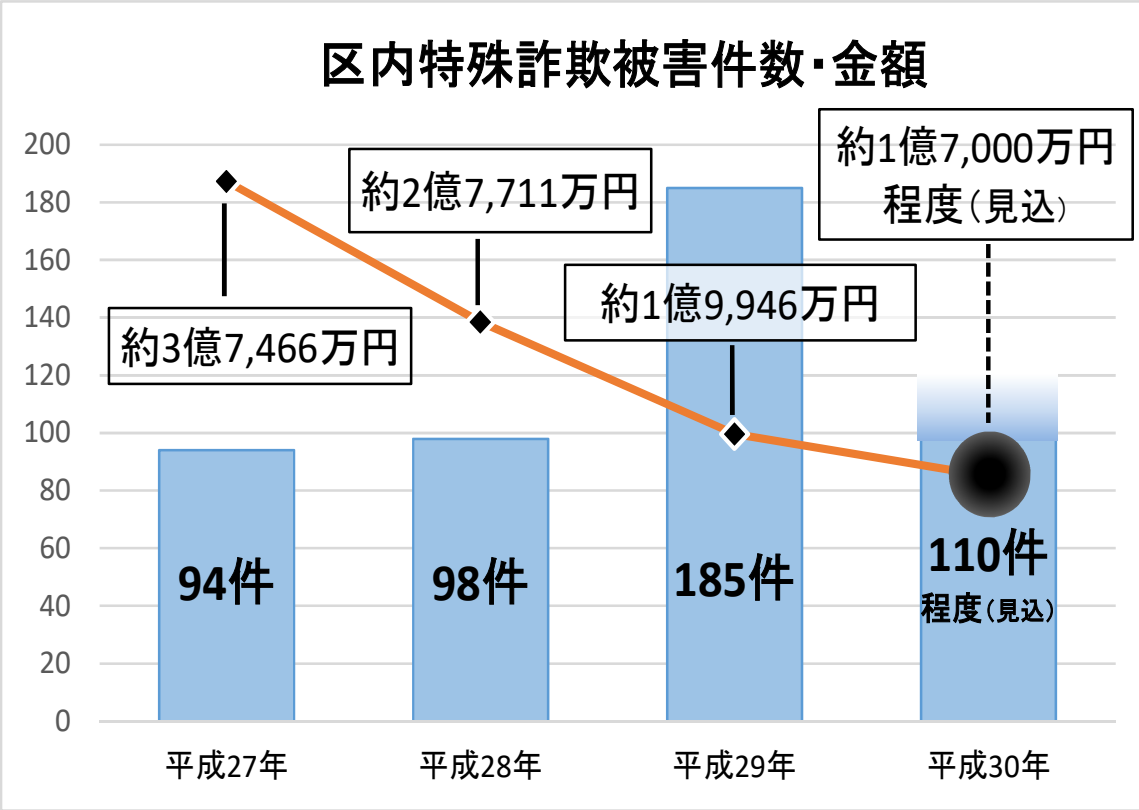
- ●H20年『ビューティフル・ウィンドウズ運動』開始
- ●H21.12警視庁生活安全部と覚書締結
- ●H23.11区内主要6駅周辺を禁煙特定区域に指定
- ●H27.2区内4警察署とビューティフル・ウィンドウズ運動推進に関する協定締結
- ●H30.1自転車のカギかけを条例で義務化

刑法犯認知件数の算定方法は、年代により若干、異なります。

さらなる安全対策 1

ATMへの携帯電話抑止装置の設置

自治体による設置 都内初



★被害件数は減少しているものの、
1件当たりの**被害金額は高くなっている。**

区内金融機関ATMに『携帯電話抑止装置』を設置

- ●予算額 **5,500千円【新規】**
- ●設置数　10ヵ所
- ●設置時期　7月頃
- ●効果　ATM利用者の携帯電話を強制的に圏外にする
- ●設置場所 犯罪抑止効果を高めるため、設置する金融機関・場所は非公表

さらなる安全対策2

地域BWAを活用した登下校見守り強化①

NEW

2019年4月～地域BWAが稼働

①区有施設の公衆無線Wi-Fiスポットの整備 4月～

➡災害時には、無料Wi-Fiの利用制限を解除（無制限で利用可能） ※停電時など、電力供給が無い状態では利用不可

②小学生の登下校見守り体制強化 4月～

➡小学校の登下校と学童保育室・児童館の入退室を保護者にメール配信するサービスを開始

➡区と協定を結んだ事業者が、保護者と契約しサービスを提供

③防犯カメラのネットワーク化 7月～

➡屋外防犯カメラネットワークシステム導入・順次運用開始

※2023年度末までに全ての屋外防犯カメラをネットワーク化完了予定

地域BWAとは

BWA＝広帯域移動無線アクセス（Broadband Wireless Access)の略

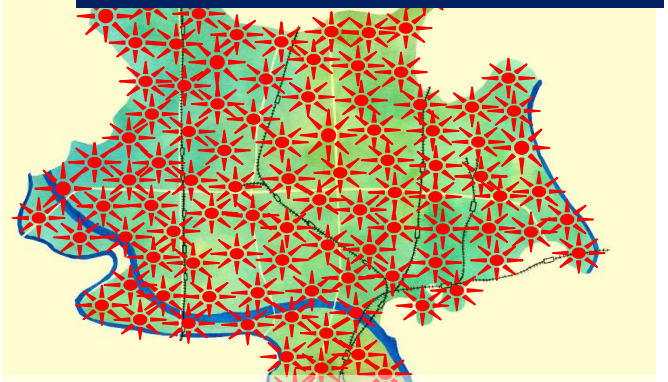
（特徴）○ 高いセキュリティ

○ 安価な無線通信コスト

地域の公共サービス向上や通信環境の改善を目的とした、高速データ通信基盤を整備する制度	通信時に使用される領域や規模が広いことを広帯域と言い、多くのデータの送受信を高速で行うことが可能な仕組み

2019年4月基地局開設のイメージ（区内の一部）

100局程度 ＝ 区内全域をカバー



2019年7月基地局開設のイメージ（区内全域）

さらなる安全対策2

地域BWAを活用した登下校見守り強化②

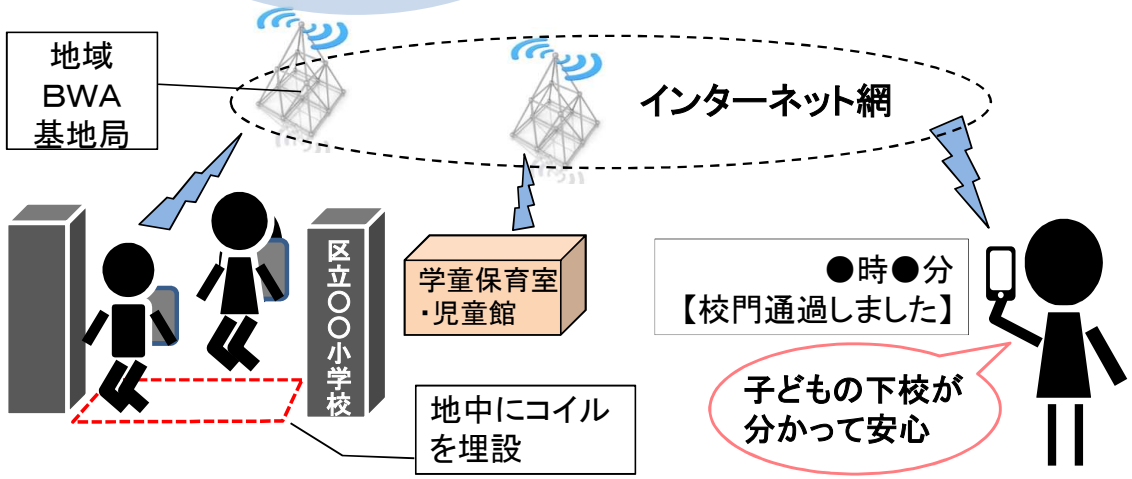
小学校の登下校を保護者にメール配信

＋

学童保育室・児童館への入退室を保護者にメール配信

放課後の子どもを
トータルで見守り

【2月】
●入学説明会で新1年生へ申込書配布
●新2～6年生に申込書を配布
➡保護者から事業者へ申込書を送付
【3月】
●新2～6年生の申込者にタグを配布
【4月8日（入学式・始業式）】
●新1年生申込者にタグを配布
●メール配信開始



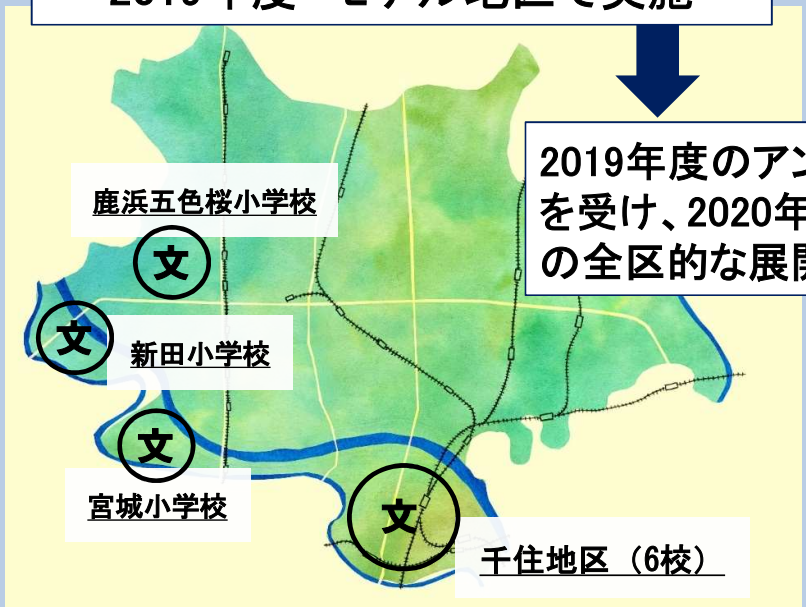
小学1年生の利用料を区が全額助成

（統合校は一定期間2年生まで助成）

5,271千円【新規】

月額400円×消費税×10ヵ月×対象者1,220人
（導入初年度の2ヵ月分は事業者負担）

2019年度　モデル地区で実施



2019年度のアンケートを受け、2020年度以降の全区的な展開を検討

予算のあらまし：45ページ

さらなる3 安全対策

公衆喫煙所の受動喫煙対策強化①

東京都 受動喫煙 防止条例

2019年～　敷地内禁煙スタート

※9月1日までの間において都の規則で定める日

※学校、病院、児童福祉施設、行政機関　など

2020年4月1日全面施行　原則屋内禁煙に

※ホテル、事務所、従業員のいる飲食店 など

懸念

路上喫煙の増加

屋外での受動喫煙

吸殻等のポイ捨て

増える可能性

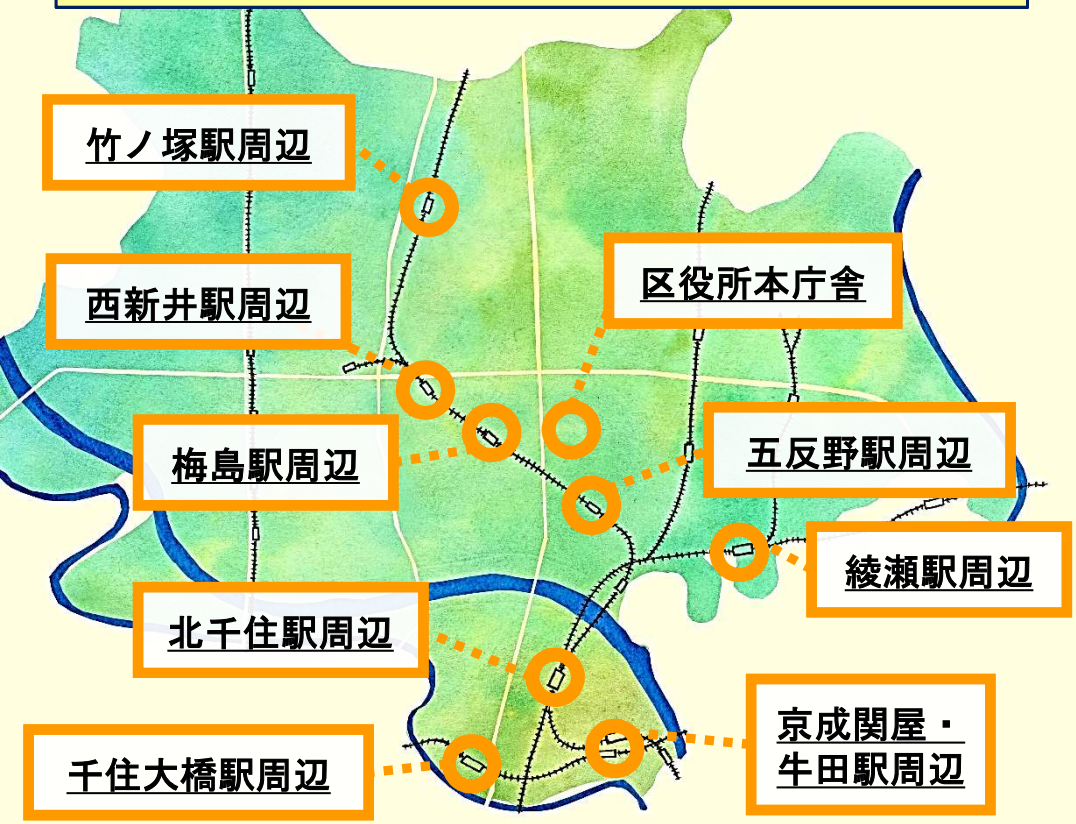
公衆喫煙所での受動喫煙対策強化

予算のあらまし：45ページ

さらなる3 安全対策

公衆喫煙所の受動喫煙対策強化②

区内９地点・１５ヵ所の
公衆喫煙所の受動喫煙対策強化



コンテナ型喫煙室の設置
9ヵ所（予定）

108,000千円【新規】

12,000千円
×9ヵ所

コンテナ型喫煙室
（イメージ）

パーテーション型喫煙所の整備
6ヵ所（予定）

24,000千円【新規】

基礎打ち：3,000千円
×4ヵ所
置き型：6,000千円
×2ヵ所

パーテーション型喫煙所
（イメージ）

16,040千円【新規】 **維持管理（警備・清掃・調査）**

予算のあらまし：38ページ

さらなる4 安全対策

避難所となる 学校体育館へのエアコン設置

第一次避難所となる体育館の生活環境の向上

＋

熱中症対策、児童・生徒が学びに集中 教育環境の向上

予算額：
148,000千円【新規】

1校あたり12台設置
※イメージ

全校設置を前提に、
2019年度はモデル校3校に**エアコン**を設置し、空調能力を検証します。
※2019年度はリース1校、取付工事2校

計画的に「防災対策」を進めるために

「足立区防災減災対策整備基金」を創設
（平成30年度3月補正計上予定）

区民の生命・財産・安全を守る防災、減災対策の強化に資する公共施設等の整備に要する資金に充てる（当初積立40億円）

【今後の使途予定】
■避難所（学校体育館）エアコン設置
■マンホールトイレ　ほか

3 礎

子どもの学習環境

より強く、築こう。 人生100年時代の**礎**

ADACHI CITY

子どもの学習環境 1

学校ICT環境の整備①

2019年度中に、区立小・中学校全校（104校）にICT環境を整えます

予算額：1,090,513千円【新規】 ※ 5年総額42億円

全学級で、ICTをいつでもすぐに利用できる、使いやすい環境を用意します

大型ディスプレイ＋無線通信機器を全学級に常設

※ 無線でタブレット画面を大型ディスプレイへ投影

特別教室（理科室など）を含めると、整備率は140%超に

教員1人1台のタブレットを約2,000台整備

ICTを用いた「分かる授業」「楽しい授業」の実現を支援します

児童・生徒用タブレットを、1校40～80台整備

デジタル教科書や授業支援ソフトが全学級で利用可能

動画やデジタル教材を授業に導入

ICT支援員を各校へ週1回派遣

授業でのICT活用をサポート

子どもの学習環境 1

学校ICT環境の整備②

これまでの取り組みにICTを効果的にかけ合わせ、さらなる学習意欲の向上と学力の定着を目指します

足立区の学力向上施策

「足立スタンダード」に基づく
「分かる授業」
「楽しい授業」

小中連携による一貫した
英語教育の充実

Point
ICTの活用方法・場面を新たに位置づけます

× ICT

新学習指導要領に対応

動画やデジタル教材を授業に取り入れ、視覚的な理解を強化

ICTを利用した協働学習でコミュニケーションを活性化

「聴く」「話す」
音声主体の英語教育を実現

＋ Point PDCAの構築

ICT教育推進の基本方針に基づき、指標を設定 → 有識者を含めた推進会議による効果検証 → ICT支援員と連携した授業改善